

平成24年度政府予算案における文部科学省の青少年の体験活動の推進に関する主な取組

1. 豊かな体験活動推進事業

【24年度予定額：学校・家庭・地域の連携協力推進事業8,516,196千円の内数】

（23年度予算額：学校・家庭・地域の連携協力推進事業9,450,272千円の内数）

児童の豊かな人間性や社会性を育むため、学校教育において行われる自然の中での集団宿泊活動を推進する取組を支援する。

2. 青少年の意欲を高める体験活動の推進

【24年度予定額：254,197千円】（23年度予算額：247,174千円）

青少年が自立への意欲を高め、心と体の相伴った成長を促進するため、全ての青少年の生活に体験活動を根付かせ、社会との関係の中で自己実現を図れるよう、自然体験、社会体験及び国際交流体験など多様な体験活動の機会を充実するための取組を推進する。

（1）青少年の体験活動の推進

【24年度予定額：115,515千円】（23年度予算額：108,492千円）

- ① 全国的な普及啓発の実施
- ② 自然体験活動指導者養成事業
- ③ 防災キャンプ推進事業【新規】
- ④ 全国青少年教育施設実態調査

（2）青少年の国際交流の推進～Road to Japan～

【24年度予定額：138,682千円】（23年度予算額：138,682千円）

- ① 青少年国際交流推進事業
- ② 青少年教育施設を活用した国際交流事業
- ③ 世界に雄飛するたくましい青少年を育む国際交流事業～ジョイン・イン・ジャンボリー～【新規】

《独立行政法人国立青少年教育振興機構関係》

国立青少年教育施設における自然体験活動等の機会と場の提供

【24年度事業費予定額：9,522,578千円】（23年度事業費予算額：9,535,518千円）

※（独）国立青少年教育振興機構の運営費交付金及び施設整備費補助金

独立行政法人国立青少年教育振興機構（国立オリンピック記念青少年総合センター、国立青少年交流の家（13施設）、国立青少年自然の家（14施設））において、立地条件や各施設の特色を生かした自然体験活動等の機会と場の提供や指導者の養成を行う。

「子どもゆめ基金」事業

【24年度事業費予定額：2,300,000千円】（23年度事業費予算額：2,300,000千円）

※（独）国立青少年教育振興機構の運営費交付金から上記基金事業費を確保

未来を担う夢を持った子どもの健全育成の推進を図るため、独立行政法人国立青少年教育振興機構に設置されている「子どもゆめ基金」により、民間団体が行う子どもの自然体験活動等への助成を行う。

豊かな体験活動推進事業

平成24年度予算額(案) 8,516百万円の内数
(9,450百万円の内数)

- ・ 児童の豊かな人間性や社会性を育むためには、自然体験活動をはじめ様々な体験活動を行うことで、命を大切に作る心や他人を思いやる心、規範意識等の育成を図ること等が極めて重要である。
- ・ また、一般的に宿泊を伴う体験活動においては3泊4日以上での体験日数を確保することが望ましく、これを宿泊体験の当面のモデル的な期間とすべきとされ、さらに、学校が所在する地域ごとの比較では、日常生活での実体験活動の不足については地域を問わず共通の課題となっている、との研究結果もでてきている。
- ・ このため、小学校において実施する体験活動のうち、3泊4日以上の日数での自然の中で集団宿泊活動を支援することで、3泊4日以上の日数での活動を全国に普及させ、小学校における豊かな体験活動のより充実した展開を推進する。

1. 事業内容

(1) 自然宿泊体験事業 ～子ども農山漁村交流プロジェクト～

216校 (108地域各2校)

農林水産省、総務省と連携して実施する「子ども農山漁村交流プロジェクト」として、農林水産省が指定するモデル地域等において、3泊4日以上での宿泊体験を通じて自然体験活動等を行う小学校の取組に対する補助を行う。

活動の支援や成果の普及により、
体験活動のより充実した展開を推進

(2) 体験活動推進協議会

108地域

各都道府県・指定都市・中核市において、様々な体験活動を推進していく上での課題や成果について議論を行ったり、好事例の収集、各学校への情報提供や取組の普及を図る協議会を立ち上げる。

2. 補助事業者 都道府県・指定都市・中核市
また、間接補助事業として行う場合は市町村

3. 補助率 1 / 3

青少年の健全育成の推進

1. 青少年の意欲を高める体験活動の推進

(前年度予算額 247,174千円)
24年度予定額 254,197千円

[事業要旨]

青少年が自立への意欲を高め、心と体の相伴った成長を促進するため、全ての青少年の生活に体験活動を根付かせ、社会との関係の中で自己実現を図れるよう、自然体験、社会体験及び国際交流体験など多様な体験活動の機会を充実するための取り組みを推進する。

[事業内容]

(1) 青少年の体験活動の推進 (108,492千円)

① 全国的な普及啓発の実施 (10,463千円)

家庭や企業などへ体験活動の理解を求めていくための普及啓発を実施する。

- ・ 青少年の体験活動の必要性・重要性を広く家庭や社会に発信する。
- ・ 青少年の体験活動の推進に寄与する団体間の連携を図る。

【民間団体等へ委託】

② 自然体験活動指導者養成事業 (87,200千円)

自然体験活動の教育効果を高めるとともに、青少年が安全で安心して体験活動を行えるよう、その指導者を養成することにより、青少年の自然体験活動を推進する。

【都道府県教育委員会、民間団体等へ委託】

③ 防災キャンプ推進事業【新規】 26,712千円

未曾有の被害をもたらした東日本大震災を受け、各地域において想定される災害や被災時の対応等の理解、学校等を避難所とした生活体験などの防災教育プログラムを実践する防災キャンプを実施することにより、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進する。

【都道府県教育委員会へ委託】

④ 全国青少年教育施設実態調査【新規】 11,189千円

公立・民間の青少年教育施設の設置状況、利用状況や事業内容等の全国的調査を実施し、我が国全体の施設配置状況等を把握するなど、今後の青少年の体験活動の推進施策の企画立案に資する。

【民間団体等へ委託】

(2) 青少年の国際交流の推進～Road to Japan～ (138,682千円)
138,682千円

① 青少年国際交流推進事業 (49,284千円)
49,870千円

国内外の青少年指導者及び次代を担う青年リーダー、高校生の海外派遣・日本招へいを行い、内外の青少年の現状や問題点等についての意見交換や、青少年育成活動、施設等の現地調査を行うなど研修を伴った相互交流事業を実施する。

【民間団体等へ委託】

② 青少年教育施設を活用した国際交流事業 (84,155千円)
57,883千円

東アジアを中心とした海外の青少年を日本に招き、青少年教育施設を中核とし、関係機関と連携し、地域の特性を生かした自然体験・スポーツ体験・文化体験等の機会を提供することにより、日本に対する理解増進を図るとともに、招いた海外の青少年との国際交流体験を通じて、日本の青少年の国際的視野を醸成し、東アジアの中核を担う次世代リーダーを養成する。

【民間団体等へ委託】

③ 世界に雄飛するたくましい青少年を育む国際交流事業【新規】 26,002千円
～ジョイン・イン・ジャンボリー～

青少年教育施設を中核として、諸外国の青少年と自然体験・スポーツ体験・文化体験等の様々なプログラムによる国際交流事業を実施し、人類全体の未来に貢献する青少年を育むとともに、インターネット等を活用し、復興を目指す日本の青少年の活力を世界にアピールする。

【民間団体等へ委託】

青少年の体験活動の推進

(前年度予算額 : 108,492千円)

24年度予定額 : 115,515千円

課題

◆現状

- 青少年をめぐる様々な問題（ニート、ひきこもり、不登校など）
- 青少年の意欲やコミュニケーション能力、規範意識等の低下

◆原因

- 直接体験の不足（体を動かす体験、自然体験）
 - 「天気の来に登ったことがほとんどない子ども」
H10:43%→H21:52%
 - キャンプをほとんどしたことがない子ども
H10:38%→H21:57%
- 生活習慣の乱れ（夜更かし、朝食欠食）
- 希薄な対人関係（保護者の関与が少ない、地域の大人の関与が少ない、仲間との接触が少ない）

要旨

青少年の体験活動の推進を図るため、家庭や企業などへ体験活動の理解を求めていくための普及啓発に取り組むとともに、自然体験活動の指導者養成を図る。また、防災教育の観点に立った体験活動を推進する。

背景

- 子ども・若者ビジョン（H22.7.23）
 - ◇子ども・若者が生き生きと、幸せに生きていく力を身につけるための取組（重点課題）
 - ・社会参加・体験活動等の能動的な活動の充実
- 教育振興基本計画（H20.7.1閣議決定）
 - ◇放課後や週末の子どもたちの体験・交流活動等の場づくり
 - ◇体験活動等の推進（特に重点的に取り組む事項）
- 東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議（中間取りまとめ）
 - ◇体験的に学ぶ防災教育の機会を設けることが必要
- 青少年の体験活動の推進の在り方に関する部会（中間取りまとめ）
 - ◇体育館での宿泊等といった非常時の生活を想定した体験をする機会を設けることが必要

体験活動推進プロジェクト

① 全国的な普及啓発の実施

家庭や企業などへ体験活動の理解を求めていくための普及啓発を実施

- ・ 青少年の体験活動の必要性・重要性を広く家庭や社会に発信する。
- ・ 青少年の体験活動の推進に寄与する団体間の連携を図る。

② 自然体験活動指導者養成事業

自然体験活動の教育効果を高めるとともに、青少年が安全で安心して体験活動を行えるよう、その指導者を養成することにより、青少年の自然体験活動を推進。

③ 防災キャンプ推進事業（新規）

各地域において想定される災害や被災時の対応等の理解、学校等を避難所とした生活体験などの防災教育プログラムを実践する防災キャンプを実施することにより、防災教育の観点に立った青少年の体験活動を推進。

④ 全国青少年教育施設実態調査（新規）

青少年の体験活動の推進施策の企画立案等に資するため、公立・民間の青少年教育施設の設置状況等を調査。

地域や家庭、企業の取組を促進し、多様な青少年の体験活動を一層推進

青少年の国際交流の推進 ～Road to Japan～

(前年度予算額 : 138,682千円)

24年度予定額 : 138,682千円

1. 青少年国際交流推進事業

日本と相手国のより強い関係を築くため、日本の青少年の海外派遣、及び海外の青少年の日本招へいを基本とした相互交流を実施。

・【日独交流】

青少年指導者、若手社会人、学生青年リーダー同士が、テーマに基づき両国の社会や文化を学び理解するほか、ホームステイなどによる交流を実施。

・【日韓交流】

韓国語又は日本語を第2外国語として学ぶ高校生の相互交流を通じて日韓の相互理解を図る。



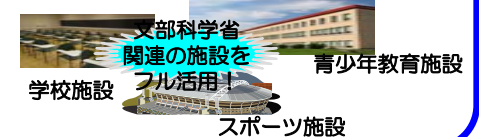
2. 青少年教育施設を活用した国際交流事業

東アジアを中心とした海外の青少年を日本に招き、青少年教育施設を中核に関係機関と連携し、様々な体験活動の機会を提供。

- ・ 文部科学省関連の施設を最大限に活用した体験活動・交流プログラムの提供
- ・ 日本の青少年の次世代リーダーシップを発揮させる場の提供
- ・ 多様な構成員からなる企画委員会の企画による多様なプログラムの提供



多様な構成員
からなる企画
委員会



文部科学省
関連の施設を
フル活用！

学校施設

青少年教育施設

スポーツ施設

3. 世界に雄飛するたくましい青少年を育む国際交流事業【新規】

～ジョイン・イン・ジャンボリー～

青少年教育施設を中核として、諸外国の青少年と自然体験・スポーツ体験・文化体験等の様々なプログラムによる国際交流事業を実施し、人類全体の未来に貢献する青少年を育むとともに、インターネット等を活用し、復興を目指す日本の青少年の活力を世界にアピール。

- ・ 国内の青少年と、海外の青少年との様々な体験を通じた国際交流(ジョイン・イン・ジャンボリー)を展開
- ・ 全国の青少年教育施設等において、約1週間程度実施(各施設をインターネット等をつなぎ、全国で体験を共有)

【プログラム例】

- ・ 放射線を正しく理解するため、著名な研究者等による講演 = 風評被害への対策
- ・ 『てんでんこレンジャー』(釜石東中学校)による津波防災意識啓発 = 防災教育の推進
- ・ 日本の食材を使ったフードフェスティバル(大屋食会) = 日本製品の信頼性回復・向上
- ・ アニメ、コスプレ、書道、茶道等カッコイイ日本文化の紹介 = 「クールジャパン」の推進
- ・ 非常時を想定したサバイバルキャンプ体験 = 孤立化、帰宅困難等を想定した「生きる力」を育む防災教育
- ・ 地域と連携した、農山漁村体験、就業体験、文化体験、スポーツ体験等の提供 = 地方の魅力発信、青少年交流、親日家育成
- ・ 健康・環境・人権・平和・国際理解等分野別に地球規模の多くの問題等について、世界中の子どもたちとインターネット等を通じて実施する「ワールド熟議」
= 人類の未来に貢献する高い志を持った我が国の人材の育成

